

教養科目（令和7年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	60010 基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋			
		〃					牛崎 里生			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金谷 由希			
		〃					新出 真理			
		〃					花屋 道子			
		60020 キャリアデザイン	①	8	1	前期	南 育子 後藤 和也			
	地域学	60111 山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	60210 英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	後期	太田 裕子			
		60230 英会話Ⅰ	①	15	1	後期	デイスティファノ, ジョーン	○		クラス別
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	デイスティファノ, ジョーン	○		
教養教育群	情報処理	60310 情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
		60320 基礎情報処理演習	1	15	1	前期	西川 友子	○		
		60330 応用情報処理演習	1	15	1	後期	西川 友子	○		
	保健体育	60410 体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
		60420 体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①		
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡			
	人間と文化・社会	60510 心理学	②	15	1	後期	花屋 道子	○		
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	花屋 道子			
		60530 社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		60540 教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		60550 法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業 本年度開講せず
		経営学概論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業
	人間と自然	60611 微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
		60620 自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
		60630 自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹			
		60640 自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○	
		60650 統計学	2	15	1	前期	山田 忍			

※ 「○数字」は必修単位数、「} ○」は選択必修単位数

※ 2年次以降の担当者は令和7年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和6年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋			
		〃					井間眞理子			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金谷 由希			
		〃					北林 蒔子			
		〃					鈴木 美穂			
		〃					花屋 道子			
		〃					南 育子			
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	後期	太田 裕子			
		英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジエソックス, プライアン	○		クラス別
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	デイスティファノ, ジョシ	○		
	情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○		
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○		
	保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①		
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡			
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	花屋 道子			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	花屋 道子			
		社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業 本年度開講せず
		経営学概論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業
	人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
		自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹			
		自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○	
		統計学	2	15	1	前期	山田 忍			

※ 「○数字」は必修単位数、「○」は選択必修単位数

※ 3年次以降の担当者は令和7年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和５年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋			
		〃					井間真理子			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金谷 由希			
		〃					北林 蒔子			
		〃					鈴木 美穂			
		〃					沼山 博			
		〃					南 育子			
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			
		英語Ⅱ	①	15	2	後期	太田 裕子			
		英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジエニクス、フライン	○		クラス別
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジエニクス、フライン	○		
	情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○		
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○		
	保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
		体育実技Ⅰ	1	15	1	後期	加藤 守匡	①		
		体育実技Ⅱ	1	15	2	前期	加藤 守匡			
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	花屋 道子			
		社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		短大と合同授業 本年度開講せず
		経営学概論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		異文化理解	2	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2	15	3・4	後期	堀田 学			短大と合同授業
	人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
		自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹			
		自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○	
		統計学	2	15	1	前期	伊豆田義人			

※ 「○数字」は必修単位数、「} ○」は選択必修単位数

※ ４年次以降の担当者は令和７年度のものであり、変更になる場合がある

教養科目（令和４年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	資格		摘要
								教職	食品衛生監視員	
基盤教育群	基礎力養成	基礎ゼミナール	①	15	1	前期	安部 貴洋			
		〃					井間真理子			
		〃					大益 史弘			
		〃					加藤 守匡			
		〃					金谷 由希			
		〃					北林 蒔子			
		〃					鈴木 美穂			
		〃					沼山 博			
		〃					南 育子			
		キャリアデザイン	①	8	1	前期	後藤 和也			
	地域学	山形の食と歴史	②	15	1	前期	青木・角屋			
	外国語	英語Ⅰ	①	15	1	前期	阿部 隆夫			クラス別
		英語Ⅱ	①	15	2	前期	石田 陽子			
		英会話Ⅰ	①	15	1	後期	ジエニクス,フライアン	○		
		英会話Ⅱ	1	15	2	後期	ジエニクス,フライアン	○		
	情報処理	情報基礎	②	15	1	前期	小池 隆太			
		基礎情報処理演習	1	15	1	前期	伊豆田義人	○		
		応用情報処理演習	1	15	1	後期	伊豆田義人	○		
	保健体育	体育理論	①	15	1	前期	加藤 守匡	○		
		体育実技Ⅰ	1 } ①	15	1	後期	加藤 守匡	} ①		
		体育実技Ⅱ	1 }	15	2	前期	加藤 守匡			
教養教育群	人間と文化・社会	心理学	②	15	1	後期	沼山 博			短大と合同授業 本年度開講せず
		コミュニケーション論	②	15	2	前期	沼山 博			
		社会学	2	15	1・2・3・4	前期	中川 恵			
		教育学	2	15	1・2・3・4	前期	安部 貴洋			
		法学（日本国憲法）	2	15	1・2・3・4	後期	堀田 学	○		
		企業論	2	15	1・2・3・4	後期	高浜 快斗			
		異文化理解	2 } ②	15	3・4	前期	村瀬 桃子			
		国際関係論	2 }	15	3・4	後期	堀田 学			
	人間と自然	微生物学	②	15	1	後期	熊田 薫		○	集中
		自然科学Ⅰ（化学）	2	15	1・2	前期	大益 史弘		○	
		自然科学Ⅱ（生物学）	2	15	1・2	前期	佐塚 正樹			
		自然科学演習	1	15	1	後期	大益 史弘		○	
		統計学	2	15	1	前期	鈴木 久美			

※ 「○数字」は必修単位数、「 } ○」は選択必修単位数

講義科目名称： 基礎ゼミナール（60010）

授業コード： 60010

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
安部・牛崎・大益・加藤・金谷・新出・花屋・南			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：大学での生活や学習に慣れる 到達目標： 1) 学科内における人間関係を構築し、生産的に議論できる雰囲気を作る。 2) テーマを設定して、情報収集し、レポート作成することができる。 3) プレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。 4) 学内資源の利用法を理解できる 5) 大学の講義の受け方やノートの取り方、学習の仕方について自分の方針を持てる。 6) 専門を支える教養を高める。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	リレーションづくり
	フリー欄	ゼミでの人間関係を作る
	第3回	
	タイトル	大学の講義とは
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ノートテイキングの基本と実践
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	研究テーマに即したレポート作成(1)
	フリー欄	研究テーマ設定のための情報収集・図書館ツアー
	第6回	
	タイトル	研究テーマに即したレポート作成(2)
	フリー欄	レポート作成のための情報収集
	第7回	
	タイトル	研究テーマに即したレポート作成(3)
	フリー欄	レポート作成
	第8回	
	タイトル	研究テーマに即したレポート作成(4)
	フリー欄	レポート作成と推敲
	第9回	
	タイトル	専門を支える教養に関心を持つ(1)
	フリー欄	ゲストスピーカーによる講話
	第10回	
	タイトル	専門を支える教養に関心を持つ(2)
	フリー欄	ゲストスピーカーによる講話
	第11回	
	タイトル	専門を支える教養に関心を持つ(3)
	フリー欄	ゲストスピーカーによる講話
	第12回	

	タイトル	プレゼンテーション資料の作成(1)
	フリー欄	プレゼンテーション資料の作成
	第13回	
	タイトル	プレゼンテーション資料の作成(2)
	フリー欄	プレゼンテーション資料の推敲
	第14回	
	タイトル	プレゼンテーションの練習
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	プレゼンテーションとディスカッション
	フリー欄	
成績評価・方法	授業への取り組み（小レポート等）20%、レポート40%、プレゼンテーション40%	
授業概要	次の①～④を行う。①学生同士・教員の交流を深め、学生の自覚と学習意欲を高める。②少人数クラスによるゼミ形式とし、ノートの取り方、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索の方法等のスタディスキルを習得する。③論理的思考や発表技法を学ぶためプレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を身に付ける。④関連領域のゲストスピーカーによる講話を聴き、専門を支える教養を高めることに興味を持つ。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	課題レポート、プレゼンテーション用の資料の作成を行うこと。講義以外でもゼミ生を中心に、学生同士で積極的にかかわりを持ち、互いに支え合うようにすること。	
教科書	適宜資料を配布する。	
参考文献	学習技術研究会編「知へのステップ」（くろしお出版）	
履修条件	西川友子先生「基礎情報処理演習」を着実に履修し、ワープロやプレゼンテーション資料作成など必要なスキルを身につけておくこと。	
備考	レポートやプレゼンテーション・データの提出締切を守ること。ゼミごとの活動の詳細についてはゼミ担当教員より指示を受けること。ゲストスピーカーの都合等により授業計画に変更が生じる場合があるので、連絡に注意すること。	

講義科目名称： キャリアデザイン (60020)

授業コード： 60020

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
後藤 和也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	基礎力養成		授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	今後のキャリア形成に有用な諸能力への理解を深める授業です。実社会では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。みなさんが管理栄養士として就職した際にも、専門職としてキャリアを築いていくうえで、職場で良好な人間関係を築き上げる等の力は欠かせません。授業をとおして、ジェネリック・スキルについて学び、考えを深めましょう。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	他者と交流を図る力（コミュニケーション能力）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	やる気や自信を保持する力（自己効力・モチベーション）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	チームを支える力（チーム・リーダーシップ）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	物事を決断する力（意思決定）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	偶然のチャンスを活かす力（キャリアにおける偶然性）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	人間関係を広げ、成長する力（メンター・発達のネットワーク）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	目標を立てる力（目標設定）
	フリー欄	
成績評価・方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業の感想内容の質）50%、最終レポート等の記載内容等50%により評価する	
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成するため、内省する時間や他者の意見を聴く時間を頻度高く設けます。授業内の活動に取り組むことで、いわゆるコミュニケーション力を育成しましょう。	
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。	
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。	
教科書	教科書は指定せず、適宜プリントを配布します。	
参考文献		
履修条件		
備考	・各種感染症等の状況により、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。 ・具体的授業日については初回のガイダンスでお示しします。	

講義科目名称： 山形の食と歴史（60111）

授業コード： 60111

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
青木 昭博・角屋 由美子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	地域学		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1 山形県は大きく4つの地域に分かれ、それぞれ特徴的な食文化が存在する。多彩で豊かな在来作物や伝統野菜、様々な行事に伴う郷土料理など、地域に根ざした食の文化を学ぶとともに、山形県の食生活の現状、並びに地産地消推進についての理解も深める。また、農業体験を通し、農産物を食生活の中に多様に活用できる人材を育てる。 2 山形県および米沢市の歴史と文化について、その概要を画像や資料などから学び、地域の特色を理解すると共に、地域に対する興味や愛着心を深める。 3 上杉鷹山の藩政改革から、地産地消の取り組みや「かてもの」を紹介し、先人の知恵を学ぶ。	
授業計画	第1回	
	タイトル	山形の自然と風土（担当：青木）
	フリー欄	きてけろくん・校歌と県民歌・庄内と内陸
	第2回	
	タイトル	原始・古代・中世の山形（担当：青木）
	フリー欄	縄文の女神・縄文クッキー・山形の古墳と荘園・山形の仏像文化
	第3回	
	タイトル	特色のある山形県の食材と料理（置賜・村山地方）（担当：角屋）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	農産物の栽培（担当：角屋）
	フリー欄	※天候により入れ替えになる可能性あり
	第5回	
	タイトル	特色のある山形県の食材と料理（庄内・最上地方）（担当：角屋）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	他県の郷土料理と食材（グループ発表）①（担当：角屋）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	他県の郷土料理と食材（グループ発表）②（担当：角屋）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	山形の戦国時代と近世の諸相（担当：青木）
	フリー欄	最上義光と伊達政宗・最上川と紅花・出羽三山・奥の細道
	第9回	
	タイトル	直江兼続と城下町米沢（担当：青木）
	フリー欄	城下町米沢の構造と特色・旅日記にみる米沢
	第10回	
	タイトル	上杉鷹山と米沢藩の改革（担当：青木）
	フリー欄	なせばなる・漆の実のみのる国・伝国の詞
	第11回	
	タイトル	山形県の成立と近代山形（担当：青木）
	フリー欄	土木県令・東洋のアルカディア・米沢工業高等学校
	第12回	

	タイトル	古代・中世の山形の食文化（担当：角屋）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	現代の山形の姿と課題、そして未来（担当：青木）
	フリー欄	「つや姫」と「雪若丸」・山形新幹線・少子高齢化
	第14回	
	タイトル	「かてもの」近世に見る食の役割（担当：角屋）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	農業体験 収穫をとおして地産地消を学ぶ（担当：角屋）
	フリー欄	
成績評価・方法	山形の食（担当角屋）：試験40%、授業への参加度（発言他）10% 山形の歴史（担当青木）：レポート25%、授業への参加度（ミニレポート）25%	
授業概要	山形県の歴史を学び、地域の特性を理解するとともに、人々の食文化が時代により、また地域により、どのように育まれたかを考える。学生自身の出身地などを見直し、比較する意見交換や実際の農業体験を通して、地域の食文化に対する関心を深める。	
実務経験及び授業の内容	（青木）長年、米沢市史編さん室や市立米沢図書館（郷土資料担当）に勤務。山形県の食と歴史では、歴史分野を担当し、写真や表等の多くのスライドを用いた授業を行う。 （角屋）米沢市上杉博物館学芸員として、担当した展覧会、参加した共同研究等から「食」に関わる部分を題材として、講義のほか畑体験やグループ発表などの授業を行う。	
時間外学習	参考文献を参照し、復習して授業内容を定着させる。	
教科書	教科書はなし。適宜資料を配布する。	
参考文献	『「かてもの」をたずねる』高垣順子著 『農と食』山形県検定テキスト 『山形の郷土料理』生活改善実行グループ連絡研究会編 『山形県の歴史散歩』（山川出版社） 『代表的日本人』（岩波文庫）	
履修条件		
備考		

講義科目名称： 英語 I (60210)

授業コード： 60210

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	外国語		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	三個の主題に沿って進める。第一は、自然科学関係の英語の文章を効率的に読みこなす練習をすることである。第二は、英語圏を中心に異文化に関する資料を読みながら語彙を増やすことである。第三には、今後日本で起こりうる異文化間の交流に必要なコミュニケーション技術を習うことである。	
授業計画	第1回	
	タイトル	GH Unit 1; 異文化 Case 15-16; TOEIC導入
	フリー欄	GH導入; 英語における呼称の文化的問題; TOEIC導入
	第2回	
	タイトル	GH Unit 1; TOEIC Part 1
	フリー欄	Unit 7 聞き取り練習; TOEIC Part 1, 写真問題攻略方法解説
	第3回	
	タイトル	異文化 Cases 1-2; TOEIC Part 2
	フリー欄	英語の呼称; TOEIC Part 2, 応答問題解説
	第4回	
	タイトル	GH Unit 2; TOEIC Part 2
	フリー欄	Unit 8 聞き取り練習; TOEIC Part 2 応答問題練習
	第5回	
	タイトル	異文化 Cases 3-4; TOEIC Part 3
	フリー欄	英語圏での挨拶と礼儀; TOEIC Part 3 会話問題解説
	第6回	
	タイトル	GH Unit 3; TOEIC Part 3
	フリー欄	Unit 9 聞き取り練習; TOEIC Part 3 会話問題練習
	第7回	
	タイトル	異文化 Cases 5-6; TOEIC Part 4
	フリー欄	英語スピーチ基礎; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説
	第8回	
	タイトル	GH Unit 4; TOEIC Part 4
	フリー欄	Unit 10 聞き取り練習; TOEIC Part 4 アナウンス問題解説
	第9回	
	タイトル	異文化 Case 7-8; TOEIC Part 4
	フリー欄	英語圏でのパーティの習慣; TOEIC Part 4 アナウンス問題練習
	第10回	
タイトル	GH Unit 5; TOEIC Part 5	
フリー欄	Unit 11 聞き取り練習; TOEIC Part 5 文法問題攻略方法解説	
第11回		
タイトル	異文化 Cases 9-10; TOEIC Part 5	
フリー欄	贈り物、お礼の英語習慣; TOEIC Part 5 文法問題解説	
第12回		
タイトル	GH Unit 6; TOEIC Part 6	
フリー欄	Unit 12 聞き取り問題; TOEIC Part 6 文章完成問題解説	

	第13回	
	タイトル	異文化 Cases 11-12; TOEIC Part 7
	フリー欄	依頼、電話の英語文化; TOEIC Part 7 読解問題攻略方法
	第14回	
	タイトル	GH Unit 7; TOEIC Part 7
	フリー欄	Unit 13 聞き取り練習; TOEIC Part 7 読解問題解説
	第15回	
	タイトル	異文化 Cases 13-14; TOEIC Part 7
	フリー欄	英語圏での時間の約束; TOEIC Part7 読解問題練習
成績評価・方法	小テスト40%、期末試験40%、提出課題20% 他、TOEIC公式会場テストを受験し一定の点数を取得した場合は努力点として加味する	
授業概要	英語の社会言語文化を題材にしながら、聞く・話す・読む・書くという基本四技能に加え、それを統括する5番目の技能である異文化間コミュニケーション能力を養う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	隔週回で教室授業の開始時に書き取り試験 (dictation)を実施するので、教科書の本文を音声データを聞きながら正確に音読する練習が必要である。	
教科書	Toshiaki Nishihara et al, Good Health, Better Life (金星堂 2019年) [上記BGと略記]; 阿部隆夫他著『42の事例から考察する異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2020年) [または廉価版: タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)] [「異文化」と略記]; 公式TOEIC Listening&Reading 問題集10 (TOEICと略記)	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 英語Ⅱ（60220）

授業コード： 60220

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
太田 裕子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	外国語		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	リーディングに加えて、 関連するTOPICの動画を視聴したりして、英語の運用能力を高めます。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション Self - Introduction
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	1 Physical Fitness pp6-9
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	1 Physical Fitness pp6-9
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	6 Stress pp29-33
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	6 Stress pp29-33
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	7 Fast Food: Super Size Me pp34-38
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	7 Fast Food: Super Size Me pp34-38
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	15 The Right to Die pp71-75
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	15 The Right to Die pp71-75
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	17 Salt, Suger, Fat pp80-85
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	17 Salt, Suger, Fat pp80-85
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	20. Photoshop Advertising pp96-100

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	20. Photoshop Advertising pp96-100
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	21 Are men necessary? pp101-105
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	21 Are men necessary? pp101-105
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	試験
	フリー欄	
成績評価・方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）	
授業概要	1. 本文を読む前に問題を確認する。 2. CDを使って聞き読み 3. 答え合わせとKey Sentencesの確認 4. Discussion	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	音声を手に入れて、ダイアログや本文を音読する。語彙を書いて覚える。	
教科書	Life Topics [Advanced] (2017) 南雲堂 著者 島岡 丘、Jpnathan Berman ¥2,310(税込) IDBN 978-4-523-17751-7 さわらびで購入可能	
参考文献		
履修条件		
備考	取り上げたunitのtopicに関連する動画を見て、内容理解の問題に取り組みます。余裕があれば、Discussionにも時間を割きたいと思います。Discussion後は、自分の考えを英語で、紙にまとめて提出しましょう。	

講義科目名称： 英会話 I (60230)

授業コード： 60231 60232

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
ディステファノ, ジョン			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	外国語		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Students will learn and practice conversation strategies for various topics. There will also be grammar and pronunciation activities, and students will be assigned vocabulary homework for each class session. Students will then use all of the above to give a presentation.	
授業計画	第1回	
	タイトル	Orientation
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	Unit 1 Introductions
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	Unit 2 Family
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	Unit 3 Shopping
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	Unit 4 Food
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	Unit 5 Music
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	Unit 6 Free Time
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	Unit 7 Travel
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	Unit 8 Sports
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	Unit 9 Friends
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	Unit 10 Work
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	Unit 11 Movies

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Unit 12 Personal Tech
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Class Presentations
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Free conversation and end of semester survey
	フリー欄	
成績評価・方法	Students` grades will be broken down as follows: 60% for communication in classroom sessions, 20% for presentations, and 20% for assigned homework.	
授業概要	Using a course textbook, students will learn topic-related vocabulary, grammar, and conversation strategies. There will then be a class presntation from each student.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	For each unit, students will be required to study the vocabulary beforehand, as well as complete one page of textbook homework. Students will also prepare their presentations.	
教科書	Nice Talking with You, by Tom Kenney. Cambridge University Press ISBN - 10: 0521188083; ISBN - 13: 978-0521188081 Available at university bookstore.	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 英会話Ⅱ（60240）

授業コード： 60240

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択
担当教員			
ディステファノ, ジョン			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	外国語		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Students will study grammar, vocabulary, and phrase structures in the framework of a communicative methodology. They will then give a presentation on the topic of their choice. The focus of this course will be on effective communication.	
授業計画	第1回	
	タイトル	Orientation
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	Self-Introductions; Favorites
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	American Culture; Personalities
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	Simple present tense; Present progressive tense
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	Sentence Stress in English Pronunciation
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	Likes and Dislikes
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	Simple past tense
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	Communicative interaction through games
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	Phrasal verbs
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	Music listening and discussion
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	Prepositions of time and space
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	Food and nutrition
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Communicative interaction through games
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Class presentations
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Free conversation and end of semester survey
	フリー欄	
成績評価・方法	Students` grades will be broken down as follows: 60% for communication in classroom sessions, 20% for presentations, and 20% for take-home final exam.	
授業概要	Students will become familiar with structures such as verb tenses, prepositions, correct sentence stress, phrasal verbs, etc., and practice them in classroom communication.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	Students will prepare self-introductions for the class. Students will also prepare their class presentations. Students will complete their final exam outside of class.	
教科書	There is no course textbook. Instructor will provide students with copies of class handouts necessary for class activities.	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 情報基礎（60310）

授業コード： 60310

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	情報処理		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	情報学の基礎理論を前提に、現代の情報化社会がどのようなシステムに支えられているのかを知り、さらに情報セキュリティや著作権をはじめとした知的財産権の概念と制度をあわせて理解することで、技術と制度の両側面から現代社会における「情報」の重要性を学ぶことをテーマとします。 到達目標としては、まず情報とコミュニケーションの基礎理論を理解できること、次にコンピュータとインターネットの原理と構造を説明・記述できること、さらにデジタル技術をめぐる諸制度について、情報社会での活用と運用における課題を把握し、その解決のために必要な配慮を行うことができるようになること、これら3点を現代における「デジタル・シティズンシップ」のための能力として修得することを目指します。	
授業計画	第1回	
	タイトル	イントロダクション アナログとデジタル
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	記号とコミュニケーション
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	コンピュータと情報システムの歴史
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	コンピュータの構造
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	コンピュータとインターフェース
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	コンピュータと記憶装置
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	アルゴリズムとプログラミング、ネットワーク
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	インターネットの歴史と仕組み
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	移動体通信とソーシャルメディア
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	情報セキュリティ
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	個人情報の管理とメディアリテラシー
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	著作権と著作者人格権
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	著作権の権利制限と自由利用
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	知的財産権と肖像権
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	アクセシビリティと制度
	フリー欄	
成績評価・方法	課題（授業中に提出） 70%、期末レポート30%	
授業概要	本講義では、情報化社会に必要な情報処理技術の基礎知識を学び、情報システムの活用と情報の発信に求められる基本的な概念の習得をはかります。具体的には、デジタルデータとコンピュータの構造、情報システムとネットワーク、情報セキュリティ、メディアリテラシー、知的財産権・著作権の保護、個人情報の管理等について学ぶことで、技術的観点と制度的観点の双方から現代社会における情報システムの役割について理解することになります。	
実務経験及び授業の内容	第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ／システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。	
時間外学習	私たちが社会生活において活用している各種の情報システムや情報セキュリティ／知的財産権に関する制度について観察・解説してもらう課題を定期的に行います。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。	
教科書	資料プリントを適宜配布します。	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 基礎情報処理演習（60320）

授業コード： 60320

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高いワープロソフトやプレゼンテーションソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】ワープロソフト・プレゼンテーションソフトを使う上で必須の基本機能を操作できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	パソコンとメールソフトの基本操作
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	タイピング、日本語入力、ファイル操作
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	ワープロソフトの基本操作
	フリー欄	Microsoft Wordを使用する
	第5回	
	タイトル	レイアウトと書式設定（文字の修飾など）
	フリー欄	課題１、授業内タイピング課題①
	第6回	
	タイトル	表の作成（基本）
	フリー欄	授業内タイピング課題②
	第7回	
	タイトル	表の作成（応用）
	フリー欄	課題２、授業内タイピング課題③
	第8回	
	タイトル	ワープロソフト実技テスト(1)
	フリー欄	座席指定、持ち込み不可
	第9回	
	タイトル	ビジネス文書（社内文書）
	フリー欄	授業内タイピング課題④
	第10回	
	タイトル	ビジネス文書（社外文書）
	フリー欄	授業内タイピング課題⑤
	第11回	
	タイトル	ワープロソフト実技テスト(2)
	フリー欄	座席指定、持ち込み不可
	第12回	
	タイトル	プレゼンテーションソフトの基本操作
	フリー欄	授業内タイピング課題⑥、Microsoft PowerPointを使用する

	第13回	
	タイトル	図やオブジェクトの挿入と編集
	フリー欄	授業内タイピング課題⑦
	第14回	
	タイトル	図表・グラフ・表の挿入と編集
	フリー欄	授業内タイピング課題⑧
	第15回	
	タイトル	プレゼンテーションソフト実技テスト
	フリー欄	座席指定、持ち込み不可
成績評価・方法	授業回数の5分の4以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 〔観点①〕授業時間内タイピング課題：15%（3点×8＝24点満点） 〔観点②〕授業時課題：25%（※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） 〔観点③〕実技テスト：60%（※各テストの満点は、自己採点表に設定された配点の合計点とする） 授業時間内タイピング課題は指定の提出時間内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。 授業時課題は指定された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。授業時課題は提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。	
授業概要	実務で利用されることの多いワープロソフトやプレゼンテーションソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。また、日商PC検定試験の文書作成3級ならびにプレゼン資料作成3級に合格できるレベルを目指す。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎情報処理演習の授業を行う。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容のすべてを確認したうえで、課された課題に取り組み、提出期日までに提出してください。また、実技テストを実施するため、空き時間をなどを活用してワープロソフトやプレゼンテーションソフトの操作の練習を行ってください。タイピングの上達度もパソコンに触る機会や練習の積み重ねに応じて伸びていきます。	
教科書	適宜、講義資料を配布します。	
参考文献		
履修条件		
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参してください。	

講義科目名称： 応用情報処理演習（60330）

授業コード： 60330

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	情報処理		授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス
	フリー欄	各回の授業ではタイピング課題に取り組みます。
	第2回	
	タイトル	表計算ソフトウェアとは
	フリー欄	Microsoft Excelを使用する
	第3回	
	タイトル	表計算ソフトウェアの基本操作
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	表の作成、セルの参照、数式
	フリー欄	課題 1
	第5回	
	タイトル	関数の取り扱い
	フリー欄	課題 2
	第6回	
	タイトル	関数を使いこなす
	フリー欄	課題 3
	第7回	
	タイトル	関数を用いた状況に応じた処理の取り扱い
	フリー欄	課題 4
	第8回	
	タイトル	文字列操作、文字列検索
	フリー欄	課題 5
第9回		
タイトル	グラフの作成と編集	
フリー欄	課題 6	
第10回		
タイトル	複合グラフの作成	
フリー欄	課題 7	
第11回		
タイトル	簡易データベースとしての利用	
フリー欄	課題 8	
第12回		
タイトル	ピボットテーブルによる集計	
フリー欄		

	第13回	
	タイトル	総合実践（ピボットテーブルによる集計）
	フリー欄	課題 9
	第14回	
	タイトル	総合実践（ABC分析）
	フリー欄	課題 1 0
	第15回	
	タイトル	ExcelデータをWord文書に利用する
	フリー欄	期末課題
成績評価・方法	授業回数の 5 分の 4 以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①] 授業時間内タイピング課題：2 0 % （3 点×1 5 = 4 5 点満点） [観点②] 授業時課題：4 0 % （※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） [観点③] 期末課題：4 0 % （※配点の総合計を満点とする） 授業時間内タイピング課題は指定の提出時間内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。 授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。授業時課題は提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。	
授業概要	実務で利用されることの多い表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。また、日商PC検定試験のデータ活用 3 級に合格できるレベルを目指す。	
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習の授業を行う。	
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回 4 時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容のすべてを確認したうえで、課された課題に取り組み、提出期日までに提出してください。タイピングの上達度もパソコンに触る機会や練習の積み重ねに応じて伸びていきます。	
教科書	適宜、講義資料を配布します。	
参考文献		
履修条件	前期開講科目「基礎情報処理演習」を履修し、単位を修得済みであることを履修条件とします。	
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参してください。	

講義科目名称： 体育理論（60410）

授業コード： 60410

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
加藤 守匡			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	保健体育		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	体力の概念や運動への意思・意欲、日常生活における活動やスポーツが身体の発育や身体機能の維持・増進に与える役割を理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	日常の身体活動量、運動不足
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	体力の構成要素、体力評価の方法
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	発育発達と体力
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	加齢と体力
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	健康と体力
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	各種運動におけるエネルギー供給
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	運動前の準備と確認事項
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	運動トレーニングに適切な運動負荷
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	健康増進のための取り組み
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	肥満、体重調節と運動
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	疲労と体力
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	軽運動及びストレッチング
	フリー欄	
	第13回	

	タイトル	運動とメンタルヘルス
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	学生生活と運動量、健康との関連
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	生涯スポーツと健康
	フリー欄	
成績評価・方法	テスト40%、レポート40%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）20%	
授業概要	日常生活の活動やスポーツと体力・健康との関わりを学習し生涯に渡り活動的なライフスタイル構築の意義を学習する。	
実務経験及び授業の内容	これまでの研究機関で実施してきたスポーツ科学、体育・スポーツ実習、自治体での運動教室、スポーツ指導、山形県トレーナー協会理事などの経験を生かし体育理論の授業を行う。	
時間外学習	授業を踏まえて資料等を読み直す。毎回の授業やノートやメモを整理する。	
教科書	資料を適宜配布します。	
参考文献		
履修条件		
備考	授業受講において、次のような行為は単位が取得できないことがあります。 ・課題の作成、提出する際に他者の成果を盗用する行為。 ・携帯電話やスマートフォン、タブレット端末等の電子機器を使用する行為（担当教員の指示及び許可による使用は除く）。 また、教員の許可なく、授業の録画や録音、講義資料の撮影を行うことを禁止します。	

講義科目名称： 体育実技 I （60420）

授業コード： 60420

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	実技を通じて、自ら実践していく能力を習得する。また、学生間のコミュニケーションの活性化やスポーツに親しむ態度を学習し運動を通じた健康の維持増進を理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ストレッチングと有酸素運動（ウォーキング速度の設定）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ストレッチングと有酸素運動（個人毎に設定した速度で ウォーキング）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ストレッチングと有酸素運動（ウォーキングとジョギング）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	音楽に合わせた全身運動（動きの確認と低強度運動）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	バランスボール、縄跳びを用いた運動（個人で行う運動）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	バランスボール、縄跳びを用いた運動（グループで行う運動）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	バランスボール、縄跳びを用いた運動（グループで行う運動）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	自重負荷を用いた筋力トレーニング
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキング速度の設定）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	トレッドミル装置を用いた有酸素運動（個人毎に設定した 速度でウォーキング）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	トレッドミル装置を用いた有酸素運動（ウォーキングと ジョギング）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（運動負荷設定）
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動（個人毎に設定した負荷で運動）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	器具を使った筋力トレーニング（負荷調整の習得）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	器具を使った筋力トレーニング（個人毎に設定し負荷で運動）
	フリー欄	
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、途中入退室等）：50%	
授業概要	有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチなどのフィットネストレーニングの技術を習得していく。講義期間を通して、自らの体調チェックや体力レベルを維持・増進したりできる手段を身につける。	
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅰの授業を行う。	
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。	
教科書	必要な資料は授業時に配布する。	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 体育実技Ⅱ（60430）

授業コード： 60430

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
基盤教育群	保健体育		授業形態：実習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ソフトバレーボール（種目の理解と練習及び試合）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	ソフトバレーボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	ソフトバレーボール（複数のチームを作り試合）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	卓球（基本的技能の習得）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	卓球（複数の対戦相手を設定し試合）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	バドミントン、テニス（基本的技能の習得）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	バドミントン、テニス（複数の対戦相手を設定し試合）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	ソフトボール（基本的技能の習得）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	ソフトボール（複数の対戦相手を設定し試合）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	フットサル（種目の理解と練習及び試合）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	フットサル（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	フットサル（複数のチームを作り試合）
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	バスケットボール（種目の理解と練習及び試合）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	バスケットボール（チームの中で連携した動きを習得し試合での応用を目指す）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	バスケットボール（複数のチームを作り試合）
	フリー欄	
成績評価・方法	レポート：50%、態度（理由、報告のない欠席、積極性等）：50%	
授業概要	球技やラケット競技などの個人スポーツ、チームスポーツ、ニュースポーツなど様々なスポーツを行う。各種目の最初では、ルール説明などを行い種目毎の特性を理解する。また、練習やゲームなどを通して身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツについて学習する。	
実務経験及び授業の内容	様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし体育実技Ⅱの授業を行う。	
時間外学習	自分ができない技術やグループでの打ち合わせが必要であれば適宜行う。	
教科書	必要な資料は授業時に配布する。	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 心理学（60510）

授業コード： 60510

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
花屋 道子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：心理学入門 到達目標： 1) 心理学を学問として成り立たせている考え方や方法を理解し、解説できる。 2) 感覚・知覚、認知に関する心の働き、集団に属することによって生じる心の働きを理解し、解説できる。 3) 心理学の基本的事項を人間のさまざまな活動に当てはめて考察し、論じることができる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション：心理学とは
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	心理学の歴史
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	心理学の研究方法
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	感覚（感覚の測定）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	感覚（感覚モダリティ、モダリティ間現象）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	知覚（図形知覚の基礎）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	知覚（群化要因）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	知覚（奥行知覚・三次元視）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	知覚（運動視）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	認知（記憶の種類・記憶の特性）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	認知（推論・判断）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	感情（生起メカニズムと感情の働き）

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	社会（状況の力）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	パーソナリティ（自分について知りたいところ）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめと試験
	フリー欄	
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%	
授業概要	人間の理解に必要な心理学的知識について概説する。人間が外界の情報を処理する仕組みやその特徴について解説するとともに、社会的な存在としての人間について考察する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。	
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。	
参考文献	参考文献は適宜紹介する。	
履修条件		
備考	授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。	

講義科目名称： コミュニケーション論（60520）

授業コード： 60520

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
花屋 道子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：コミュニケーションに関する心理学的知見に触れながら、自らのコミュニケーションを振り返る到達目標： 1) 人間のコミュニケーションの特徴や傾向について解説できる。 2) 人間関係が構築されるメカニズムについて、心理学の観点から解説できる。 3) 言語的コミュニケーションの留意点と、非言語的コミュニケーションの果たす役割について解説できる。 4) 「差異」の観点から異文化との交流の意味について考察できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	人間のコミュニケーション（関係構築のメカニズム）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	人間のコミュニケーション（初対面と第一印象）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	人間のコミュニケーション（印象管理と自己呈示）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	人間のコミュニケーション（自己理解と自己開示）
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	言語的コミュニケーション（理論に基づく理解）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	言語的コミュニケーション（演習に基づく理解）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	非言語的コミュニケーション（理論に基づく理解）
	フリー欄	
第9回		
タイトル	非言語的コミュニケーション（演習に基づく理解）	
フリー欄		
第10回		
タイトル	コミュニケーションに関する自己理解の促進（自我状態）	
フリー欄		
第11回		
タイトル	コミュニケーションに関する自己理解の促進（交流パターン分析）	
フリー欄		
第12回		

	タイトル	コミュニケーションに関する自己理解の促進（グループプロセスと個人の体験）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	コミュニケーションに関する自己理解の促進（グループの成長とリーダーシップ）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	コミュニケーションに関する自己理解の促進（非意識のバイアス）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめとレポート試験
	フリー欄	
成績評価・方法	レポート試験60%、授業への取り組み（コメントペーパー等）40%	
授業概要	人間とかかわる際に必要なコミュニケーションに関する基本的知識について、主として心理学的知見を通して理解する。取り上げる内容は、①人間のコミュニケーションの特徴と傾向、②言語的コミュニケーションにおける留意点、③非言語的コミュニケーションの特徴、④コミュニケーションに関する自己理解の促進、の4項目である。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	配布された資料を用いて、復習を行うこと。	
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。	
参考文献	参考文献は適宜紹介する。	
履修条件		
備考	講義の中で実際に人とかかわる場面があるので、その点に留意して履修すること。授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。	

講義科目名称： 社会学（60530）

授業コード： 60530

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と社会の見方を理解できる。 論文・書籍を自ら探し、内容を十分に理解して説明できる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス（学習目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／関心の所在） ／写真から見える食
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	中学生・大学生の食事：食の外部化とダイエット／食から見える大学生の生活
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	データからみる大学生の食
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	大学生世代の家族の歴史
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	食品産業の変化と大学生の食
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	家族と共食
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	世代による食行動の違い
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	青年期の自己・パーソナリティと食
	フリー欄	
第9回		
タイトル	青年期の対人関係と食	
フリー欄		
第10回		
タイトル	大学生の階層的 position と食習慣	
フリー欄		
第11回		
タイトル	社会階層と食生活：量的データによる食格差の分析	
フリー欄		
第12回		
タイトル	学生食堂における朝食支援	
フリー欄		

	第13回	
	タイトル	飽食環境に生きる大学生たち
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	テキスト解題：若者たちの食卓は
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総合討論：食料非常事態を乗り越えて
	フリー欄	
成績評価・方法	参加状況（60％）、課題レポート（40％）	
授業概要	グループワークの授業形式を採用し、テキストに沿ってすすめます。	
実務経験及び授業の内容	まず、該当の章について講師が解説をおこないます。 次に、テキストの内容から重要なポイントを整理します。 最後に、受講生同士がこの章の内容から得た知識や考え方、経験などを共有します。 グループワークの形式に慣れてきたら解説と内容理解の部分を短縮し、受講生同士での意見交換に比重を傾けます。	
時間外学習	60分程度 例）テキストの該当箇所を事前に読み、理解できなかった箇所について調べ、質問をリストアップする。 例）講義内に決めたテーマに沿って情報収集し、レポートを作成する。	
教科書	外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著、2017、『若者たちの食卓―自己、家族、格差、そして社会』ナカニシヤ出版	
参考文献		
履修条件		
備考	・この講義では毎回40分のグループワークを予定しています。配慮が必要な場合はご相談ください。 ・出席：出席状況は各回の講義内にて確認します。公欠の扱いは内規に準じます。この講義では就職・編入試験関連の欠席は公欠に含みません ・発表：講義内にて用語理解や参照した論文・書籍について、講義内に発表を求める場合があります。その場合、事前に日程と内容を告知します。 ・計画の変更：授業計画に示したテーマと進度は、受講生の理解度合いや関心によって若干変更することがあります。	

講義科目名称： 教育学（60540）

授業コード： 60540

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
安部 貴洋			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会	高大連携開放科目（※高校生男女が受講する場合有）	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：教育に関する基本的概念、教育史・教育思想、現代の教育 到達目標： (1)教育に関する基本的概念を説明できる。 (2)教育思想とその歴史的展開を説明できる。 (3)現代の教育制度・カリキュラム・教育評価等を説明できる。 (4)現代の教育課題と課題に対する自分の考えを述べることができるようになる。	
授業計画	第1回	
	タイトル	授業概要と授業計画 教育学とは何か
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	教育と子ども 教育の概念と近代的孩子観の誕生とその変遷
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	学校とは何か 学校の起源、近代学校の成立とその特徴
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	教育の思想と歴史①近代以前 ソクラテス、プラトンなど
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	教育の思想と歴史②近代以降 ルソー、ペスタロッチ、デューイなど
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	教育の思想と歴史③日本における教育思想 幕末、戦前の教育とその歴史的展開
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	学ぶということ 一斉授業の起源とその歴史的展開、「学び」の現在
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	教育の制度 日本の教育制度とその歴史的展開、学校系統図
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	教育課程 カリキュラムの定義、子どもの生活とカリキュラム
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	教育評価 教育評価の定義、教育評価の歴史的展開と近年の動向
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	特別支援教育 特別支援教育の理念と歴史
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	現代教育の課題① いじめ、不登校、自殺等
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	現代教育の課題② 子ども虐待、体罰等
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	諸外国の実践 シュタイナー、レッジョ・エミリアなど
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	理解の確認と総括
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	定期試験
	フリー欄	
成績評価・方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業内提出物(30%)	
授業概要	教育学は「教育に関する基本的概念」「教育史と教育思想」「現代の教育」からなる。「教育に関する基本的概念」では「教育とは何か」「子どもとは何か」等の問いを中心に教育に関する基本的な概念を理解する[第2回、第3回]。「教育史と教育思想」ではソクラテスやプラトン等の教育思想とその歴史的展開を理解する[第4回～第7回]。「現代の教育」では現代日本における教育制度・カリキュラム・教育評価等を理解し、「いじめ」や不登校といった教育課題に対する様々な考えを知り自分の考えをまとめる[第8回～第14回]。 授業は「講義」「グループワーク」「感想等の記入」等からなる。グループワークによって授業内容を確認するとともに、教育に関する多様な意見にふれ、自らの考えを深める。また、授業毎に感想等を記入する。(提出された感想等にはコメントを付し返却するとともに、授業で紹介し学びを深めるための教材とする。)	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業前に前回の授業内容を確認するとともにシラバスを参考に授業内容を把握する。授業後は授業内容の確認、授業時の疑問等の解消に努めるとともに、授業で学んだことを映画や小説等の様々なメディアで確認する。	
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。	
参考文献	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』(東京大学出版会、2009年) 木村元・小玉重夫・船橋一男〔著〕『教育学をつかむ』(有斐閣、2009年) 教育思想史学会〔編〕『教育思想事典 増補改訂版』(勁草書房、2000年) 教育哲学会〔編〕『教育哲学事典』(丸善出版、2023年) 田中智志『教育臨床学 〈生きる〉を学ぶ』(高陵社書店、2012年) 広田照幸『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』(ちくまプリマー新書、2022年)	
履修条件		
備考		

講義科目名称： 法学（日本国憲法）（60550）

授業コード： 60550

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2・3・4	2	選択
担当教員			
堀田 学			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。 〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることがわかる。 3. 人権概念を理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	憲法の基礎
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	参政権
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	国会
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	内閣
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	裁判所
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	象徴天皇制
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	平和主義
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	人権総論 1（人権の理念と歴史）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	人権総論 2（人権の享有主体性）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	信教の自由と政教分離
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	表現の自由

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	経済的自由
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	人身の自由
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	社会権
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	幸福追求権
	フリー欄	
成績評価・方法	期末試験(90%)、DVD視聴の感想・意見(10%)	
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かしています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。	
教科書	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第4版)』弘文堂、2024年 2200円 ISBN 9784335001581	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 異文化理解（60570）

授業コード： 60570

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4	2	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	この授業の目的は、自分と異なる文化を持つ人たちと比較するため、まず①各自の生まれた地域の文化について再確認することである。その上で、②異なる文化・価値観をもつ他者と、共生するためには何が大切なのかを考えたい。	
授業計画	第1回	
	タイトル	オリエンテーション
	フリー欄	15回の授業内容や、中間発表(生まれ育った地元の文化の紹介)と最終発表(受講者が関心をもっていることに関連する新聞記事を選び、要約し、自身の見解を述べる)についての説明を行う。
	第2回	
	タイトル	日本の中の異文化(1)ある小学校では…
	フリー欄	日本にいる外国ルーツの子どもたちが抱える様々な問題について知る。
	第3回	
	タイトル	日本の中の異文化(2)ある朝鮮学校では…
	フリー欄	日本にルーツを持たない子どもたちの中には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもも多い。朝鮮学校に通う子どもたちの日常から、どのような問題があるか知る。
	第4回	
	タイトル	アイヌ・沖縄が抱える問題
	フリー欄	日本にも、本土と異なる文化を持つ人たちがいる。アイヌの人たちや沖縄の人たちが抱える問題を知る。
	第5回	
	タイトル	日本における性的マイノリティの問題①
	フリー欄	外国ルーツの子どもたちも、アイヌや沖縄も、「少数者」ゆえの問題という側面がある。多数派の人たちが見ている世の中と、少数派である人たちが見ている世の中は、見え方が違う。性的少数者の視点を通して、今の社会の問題を考える。日本における性的マイノリティの問題は何かを知る。また、中間発表①を行う。
	第6回	
	タイトル	日本における性的マイノリティの問題②
	フリー欄	性同一性障害であり身体障がいでもある(ダブルマイノリティー)方のドキュメンタリーを通して、少数派の中の少数派の問題を知る。また、中間発表②を行う。
	第7回	
	タイトル	カナダの多文化主義の教育
	フリー欄	カナダは多文化主義教育を積極的に行っている。今まで見てきた日本の状況と比較する。また、中間発表③を行う。
	第8回	
	タイトル	タイの性的マイノリティ
	フリー欄	タイのある学校における性的マイノリティの生徒への取り組みを知る。また、中間発表④を行う。
	第9回	
	タイトル	女性の問題①
	フリー欄	マララ・ユスフザイさんらの活動等を通して、過酷な状況にある女性の現状を知り、これら女性に対する支援や自立への取り組みについて知る。また、中間発表⑤を行う。
	第10回	

	タイトル	女性の問題②
	フリー欄	パキスタン等の国や地域の一部に残っている「名誉殺人」の問題を中心に、女性の人権問題について知る。また、中間発表⑥を行う。
	第11回	
	タイトル	女性の問題③
	フリー欄	主にアフリカ大陸の女性たちの問題(女性性器切除)を知る。
	第12回	
	タイトル	ジェンダー今昔
	フリー欄	近代以降、日本では「子育ては母親がするもの」という考え方が広まるが、それ以前の江戸時代はどうだったのか。歴史をさかのぼってみていくと、同じ日本でも全く異なった文化や考え方があったことを知る。
	第13回	
	タイトル	発表①
	フリー欄	今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。
	第14回	
	タイトル	発表②
	フリー欄	今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。
	第15回	
	タイトル	発表③
	フリー欄	今までで興味をもった内容や、新たに疑問に思ったことなどに近い内容の新聞記事を選び、パワーポイントで発表する(個人発表)。
成績評価・方法	発表(2回分で70%)、毎回の感想(30%)で評価する。	
授業概要	異なる文化を持つ者の「生の声」をなるべく聞くため、ほぼ毎回ドキュメンタリー番組等の映像資料を用いる。また「異文化理解」とは何かを考えるため、発表を2回行う(なお、授業計画の第5～10回の半分の時間は個人発表にあて、第13～15回は発表の時間とする。)	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	自分の生まれ育った地域の文化について、調べておく。また、国内外の「異文化」について、日頃から新聞等で関心を持って見聞きすること。	
教科書	教科書は使用しない。	
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。	
履修条件		
備考		

講義科目名称： 国際関係論（60580）

授業コード： 60580

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4	2	選択必修
担当教員			
堀田 学			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と文化・社会		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。	
	〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解できる。 2. グローバルな課題を理解することができる。 3. 国際問題を理解する知識を身につける。	
授業計画	第1回	
	タイトル	国際関係論とは何か
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	20世紀の国際関係 1（2つの世界大戦と国際関係）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	20世紀の国際関係 2（冷戦時代の国際関係）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	20世紀の国際関係 3（ポスト冷戦時代の国際関係）
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	現代の国際関係(9・11以降の国際関係)
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	国際関係理論 1（リアリズム）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	国際関係理論 2（リベラリズム）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	国際機関
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	欧州統合
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	民族紛争・宗教対立 1（中東）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	民族紛争・宗教対立 2（中東）
	フリー欄	

	第12回	
	タイトル	民族紛争・宗教対立 3 （ヨーロッパ）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	安全保障 1 （軍事）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	安全保障 2 （食糧・環境）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	これからの国際関係
	フリー欄	
成績評価・方法	期末試験(70%)、DVD視聴の感想・意見(30%)	
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。	
教科書		
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論(第3版)』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ(第3版)』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA. 2021年	
履修条件		
備考		

講義科目名称： 微生物学（60611）

授業コード： 60611

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（集中）	1	2	必修
担当教員			
熊田 薫			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	生物学および進化の視点から微生物を理解する。次に食との関わりにおいて微生物を理解する。すなわち、発酵食品など有用な微生物、感染症や食中毒など有害な微生物について理解することを目指す。また、微生物性食中毒など食品衛生学で学んだ知識の微生物学的意義を理解する。	
授業計画	第1回	
	タイトル	地球史における生命の起源と微生物について考える
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	微生物研究の歴史
	フリー欄	微生物の発見から今日に至る微生物研究の歴史について考える
	第3回	
	タイトル	微生物の分類
	フリー欄	真正細菌、古細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどについて分類学上の位置
	第4回	
	タイトル	真正細菌と古細菌
	フリー欄	その進化と分類学上の位置および真核生物のとの関係
	第5回	
	タイトル	真菌の種類と分類、原生動物の特徴と分類
	フリー欄	いわゆるカビ、コウボおよびキノコの分類と生態
	第6回	
	タイトル	感染症法、新興感染症、再興感染症
	フリー欄	新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症を理解する
	第7回	
	タイトル	ウイルスとはなにか
	フリー欄	ウイルスの構造、遺伝子、宿主、増殖の特性等
	第8回	
	タイトル	微生物の生態
	フリー欄	微生物の多様な生息領域、環境および他の生物との関連
	第9回	
	タイトル	地球環境と微生物
	フリー欄	光合成微生物による酸素の産生と地球環境の変動および他の生物との関連
	第10回	
	タイトル	細菌と食品、疾病
	フリー欄	細菌を利用した発酵食品の概論および細菌による疾病概論（食中毒を含む）
	第11回	
	タイトル	真菌と食品、疾病
	フリー欄	真菌を利用した発酵食品の概論および真菌による疾病概論
	第12回	
	タイトル	ウイルスと疾病

	フリー欄	ウイルスによる疾病と特徴
	第13回	
	タイトル	トピックスⅠ
	フリー欄	RNAワールド、covid-19、進化生物学におけるRNAの役割について
	第14回	
	タイトル	トピックスⅡ
	フリー欄	納豆を作る細菌（枯草菌）の特徴と納豆の特徴について
	第15回	
	タイトル	まとめ：全体のまとめおよび微生物に関するその時々話題を取り上げ、微生物学の見地から考える
	フリー欄	
成績評価・方法	試験（100％）	
授業概要	生命の起源と微生物、一般微生物学、発酵食品と微生物、および感染症・食中毒と微生物をテーマとして全体を構成する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	必要に応じ基礎的な学習（高校の生物・科学）を復習すること。	
教科書	新版改訂 微生物と免疫 林修著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0685-0	
参考文献	ブラック微生物学第3版(原書8版)、林英生他訳 ISBN 978-4-621-08813-5	
履修条件		
備考		

講義科目名称： 自然科学 I（化学）（60620）

授業コード： 60620

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
大益 史弘			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	原子、分子、電子レベルの世界を学習し、物質の構造・性質について理解し、その上で物質同士の相互作用に関わる化学結合、化学変化（化学反応）のメカニズムについて学ぶ。さらに、様々な機能を有する有機化合物を主に取り上げ、その構造、反応、多様性について学ぶ。	
授業計画	第1回	
	タイトル	物質の構成要素と原子の構造
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	元素の周期律と物質質量
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	化学結合
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	液体と溶液の濃度
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	気体
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	化学反応と化学平衡
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	化学熱力学
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	酸・塩基と中和
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	酸化還元反応
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	無機化学
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	有機化学
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	高分子化合物
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	高分子化合物演習
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	環境と化学
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	環境化学演習
	フリー欄	
成績評価・方法	レポート80%、小テスト20%、	
授業概要	自然科学の一分野である化学は日常生活に非常に関わりの深い学問である。ここでは、ミクロな世界からマクロな世界に至る物質の世界を軸に段階的に学習する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	・「化学基礎」の教科書に目を通しておくこと。 ・物質を原子や分子レベルで理解できるようにしておくこと。	
教科書	資料を適宜配布	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 自然科学Ⅱ（生物学）（60630）

授業コード： 60630

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐塚 正樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	管理栄養士は人という「生物」を相手にしているので生物学の知識は必須である。そこで本講義では、高校時代、生物を選択しなかった学生でも理解でき、これから学ぶ栄養学の助けになるように細胞、組織、器官、器官系、個体の生物学および生理・生化学を中心に教授する。選択科目ではあるが、非常に重要な基礎科目なので高校時代、生物を選択したしなに関わらず、全員の履修をお勧めしたい。 到達目標は、以下の5つである。 ①生物が細胞を基本単位として生きていることを知っている。 ②生物は環境とのかかわりが深いことを理解している。 ③動物系生物はエネルギー物質と体構成物質を外部から取り入れる必要がありこれがヒトでは栄養学と関係していることを理解している。 ④現代遺伝論の基礎を理解している ⑤ホメオスタシスとは何かを知っている。	
授業計画	第1回	
	タイトル	大学での学び
	フリー欄	1年生の最初の講義でもあるので大学での学び方について述べます。具体的には教養とはどういうことなのか？なぜ教養を身に着けるべきなのか？特に教科書の使い方(解説)と自然科学論と生物学の位置づけについてお話しします。
	第2回	
	タイトル	授業の進め方
	フリー欄	前回の授業を受けて教科書と授業の進め方を解説して、自然科学Ⅱ(生物学)の導入部分を示します。教科書の最初は現代科学論といえるもので、この混沌した世界情勢の中で、自らを守り幸せへ導く盾になる考え方と言えるかも知れません。さらに、今回は科学論に基づく文献の利用方法についても解説します。
	第3回	
	タイトル	生命の化学
	フリー欄	生物学の本質について解説します。現代生物学をどうとらえたらよいかを指し示します。食品栄養科学の視点から言えば、この考え方は栄養学を学ぶ上での大きなヒントになるはずですが、「生物学は観察する学問である」ですが、これを現代生物学では、どうとらえるべきなのか を述べて、皆さんが学ぶ栄養学との関連を示したいと考えています。
	第4回	
	タイトル	細胞構造論とエネルギー論
	フリー欄	現代生物学において、エネルギー論を理解していないことは、将来において致命的な弱点になりかねません。そこで、いわゆる生物学で言うところの生体エネルギーとは何かを明確に解説します。これは教科書ではp. 55までの内容です。
	第5回	
	タイトル	酵素反応とエネルギー論
	フリー欄	今後、生命活動のあらゆる場面で出てくる酵素反応について概説します。そして第4回の続きとして生体エネルギー論の解説も加えます。第3回～5回までが一連の流れであり、栄養学でいうエネルギー摂取(現在の単位はキロカロリー)とも関係するのでよく復習して欲しいところです。
	第6回	
	タイトル	生命の継続 それは細胞分裂と遺伝 遺伝はアミノ酸配列情報
	フリー欄	生命は生と死を繰り返します。この仕組みを正しく理解することが、生物学の基本の一つになります。その概説として「生命の継続とは細胞分裂と遺伝であり、遺伝とはアミノ酸配列情報のことである」と順番に教科書の記述部分を示して概観します。この講義をきっかけに該当部分を各人のペースで読むことで、自然科学論的に見る生物への理解が、飛躍的に伸びるはずですが。

第7回		
タイトル	遺伝の本質①	
フリー欄	第6回を受けて、つまり生命にとっての「生と死」は、冷徹なまでに合理的に考えるとある意味、「タンパク質合成情報の伝達(アミノ酸配列情報の更新)」と述べることに無理はないでしょう。それを生物学用語では「遺伝」というわけですが、今回から3回にわたって、遺伝を古典から現代の生物学の視点で解説します。今回は観察生物学の視点で解説します。観察生物学の視点での遺伝学はその応用も自然な流れであることに注目しましょう。	
第8回		
タイトル	遺伝の本質②	
フリー欄	前回の内容を受けて分子生物学つまりは化学生物学の視点で遺伝を解説します。化学的に解析することで五感を使った観察だけでは分からなかった遺伝の秘密が明らかになるのです。この講義では分子遺伝学を概説とトピックで解説します。	
第9回		
タイトル	遺伝の本質③	
フリー欄	化学的にわかるとその応用を考えるのは不自然ではないのです。実際、バイオテクノロジー(遺伝子工学)は人類に福音をもたらしたわけです。一方で、時に(生物学的ではなく)化学的に生物をいじってしまうことが如何に不自然か・・・、今回の講義を通してわかるかもしれません。不自然な技術は時に制御が利かなくなる可能性があることも意識しましょう。今回は分子遺伝学的に現代遺伝論の基本的な部分を総まとめします。	
第10回		
タイトル	進化と生物の多様性①	
フリー欄	生命は環境に順応してその体を変化させて更新しました。これが進化です。その基本をここでは概観しましょう。将来のテラフォーミングも含めて、環境科学を考える基本的な知識にもなるのです。またこの回を受講すれば、遺伝の本質がわからなければ、進化は絶対にわからないことが理解できるはずです。	
第11回		
タイトル	進化と生物の多様性②	
フリー欄	前回(第10回)を受けて今回は生物の多様性を述べます。資料だけでもわかると思いますが壮大なストーリーが展開されて非常に面白いのです。この進化と生物の多様性は観察生物学の一大成果であり、ぜひ、教科書の該当部分は十二分に読んでください。ここに我々の生物学的教養の一つがあります。	
第12回		
タイトル	環境生物学(生態学概論)	
フリー欄	我々の母なる地球の現在と将来を考える上でこれほど重要な生物学の知識はありません。第10回と11回を受けて生物が環境に与える影響を考える学問分野が生態学あるいは環境生物学という分野です。正にテラフォーミングなどの応用技術もこの生態学から発達するでしょう。現在の地球環境を分析するうえでも生態学の考えは基本中の基本になります。	
第13回		
タイトル	ホメオスタシス①	
フリー欄	この教科書ではこの章以前の知識をつけてから生理学・解剖学的なホメオスタシスが述べられますが、ここまで講義を受けてきて予習や復習をしてきてくれた学生さんならば、この教科書の章の配列が現代生物学を教えるために、どれほど緻密で戦術的な章立てになっているのかと納得できたと思います。生命は環境に順応して恒常性(ホメオスタシス)を保とうとするのですから、環境と生物の関わりを知らずしてホメオスタシスは到底、語れないのです。この事実をよく理解して今回の講義も取り組んでください。	
第14回		
タイトル	ホメオスタシス②	
フリー欄	いよいよまとめです。ホメオスタシスを前回と今回(第14回)の2回で凝縮しました。これから生理学を学ぶ上でも前回と今回の内容は役に立つはずなのでよく理解してください。ホメオスタシスの理解のベースは「ヒトなどの動物のessenceは(中枢)神経系と筋肉であり、この2つを維持する付属機能(サポート機能)がバランスよく働くことで動物として成り立つ」と考えるのが自然です。今回と前回の講義を通してホメオスタシスの基本をよく理解しましょう。	
第15回		

	タイトル	植物生理学と総まとめ
	フリー欄	我々動物に対して対極にいるのが植物と考えるのが自然です．採用した教科書はヒトを中心に生物学を学ぶことを意識して作られており，最後に対極として植物生理学を解説しています．栄養学を学ぶ学生さんの教養としては，この教科書のコンセプトは素晴らしく，ことあるたびに再読・熟読しましょう．また，そこで本講義でも最後に簡潔に植物を解説して，最後に総まとめを行います．
成績評価・方法	テスト80％，授業態度・レポート20％	
授業概要	管理栄養士は内科医相当の生化学・生理学の知識が必要なので，生化学・生理学を理解するための基礎知識を本講義で教授する．	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本書の内容は栄養学を学ぶ上でも非常に有益なので講義期間中に通読することをお願いします．	
教科書	教養の生物学 第2版 A. Houtman ほか著 岡良隆，岡敦子訳 東京化学同人 3,300円 ISBN 9784807920457	
参考文献	①Trudy McKee/James R. McKee(著)福岡伸一(翻訳)マッキー生化学 ―分子から解き明かす生命―第6版 化学同人 ②河本宏著，マンガでわかる免疫学，オーム社 ③武村政春著，マンガでわかる生化学，オーム社 以上3冊は，すべて本学図書館電子書籍で閲覧可能	
履修条件		
備考	食品学ⅠⅡや食品学実験と非常に密接にかかわるので本講義を受講することをお勧めします．	

講義科目名称： 自然科学演習（60640）

授業コード： 60640

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
大益 史弘			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と自然		授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	主に生物化学を背景とした演習によって自然現象を理解し、創造力を育成する。実際に我々の身の回りで日常的に起こっている自然現象を中心に引き上げ、それらの出来事を自然科学的に捉え、さらには説明することができることを目標とする。	
授業計画	第1回	
	タイトル	物質の三態演習（液体）
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	物質の三態演習（固体）
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	物質の三態演習（気体）
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	軟水と硬水
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	カルシウムとマグネシウム
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	水質検査（硬度）
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	酸化還元反応演習（銅と銀）
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	酸化還元反応演習（鉄と銅）
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	酸化還元反応演習（化学電池）
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	高分子化合物演習（炭水化物）
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	高分子化合物演習（塩酸による糖化）
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	高分子化合物演習（アミラーゼ）
	フリー欄	

	第13回	
	タイトル	環境化学演習（空気）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	環境化学演習（環境水）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	環境化学演習（飲料水）
	フリー欄	
成績評価・方法	レポート90%、小テスト10%	
授業概要	化学および生物学の内容をよく理解した上で、さらなる基本的知識と応用力を習得しながら、予測した結果を得て考察する自然科学を探究するためのプロセスの一部を経験する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	・物質の生化学的な事象に関心を持つこと。 ・「化学基礎」の教科書や参考書等に目を通しておくこと。 ・授業で出てきた重要な物質について覚えるようにする。	
教科書	資料を適宜配布	
参考文献		
履修条件		
備考		

講義科目名称： 統計学（60650）

授業コード： 60650

英文科目名称： －

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
教養教育群	人間と自然		授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	近年、国民の健康確保のための対策は、科学的根拠に基づき推進することがますます重要になっている。本講義においては、栄養学に関するデータの解析をする上で必要なデータ処理の基礎概念と統計データの解析方法を学ぶ。栄養学で実践できる統計的手法を身に着けることが目標である。	
授業計画	第1回	
	タイトル	ガイダンス、統計的な考え方
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（１）：データの種類と代表値
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（２）：分散と標準偏差、変動係数
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（３）：図と表の利用
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	データの種類のまとめ方（４）：代表的な確率分布
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（１）：相関
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	2種類のデータの関連性（２）：回帰
	フリー欄	
	第8回	
	タイトル	確率論の基礎（１）：確率と確率分布
	フリー欄	
	第9回	
	タイトル	確率論の基礎（２）：一様分布と正規分布
	フリー欄	
	第10回	
	タイトル	検定の基礎（１）：推測と検定
	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	検定の基礎（２）：t 検定
	フリー欄	
	第12回	

	タイトル	検定の応用（１）：順序があるデータの検定
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	検定の応用（２）：分類されたデータの検定
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	時系列データの分析
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実社会におけるデータ活用と必要なスキル
	フリー欄	
成績評価・方法	定期試験（100点）：100％で評価する。 なお、出席時数が当該科目の授業時数の５分の４に満たない場合は、試験の受験資格を失う。	
授業概要	各回の内容について、用語や計算方法を解説した上で、簡単な例題の計算や分析を行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。	
教科書	資料を適宜配布する。	
参考文献	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社	
履修条件		
備考		